

令和5年5月24日

学園関係各位

学校法人 木村学園
大阪電子専門学校
理事長・学校長 木村 誠

令和4年度(2022年度)
学校法人木村学園事業報告

「昨年度状況」

令和4年度は、欧米ではいち早く新型コロナウイルスを克服し経済活動も軌道に乗ってきましたが、日本は前年度に引き続き感染症の拡大が続き、社会経済活動の停滞を余儀なくさせることになりました。

くわえて昨年2月のロシアのウクライナ軍事侵攻は、世界の痛烈な非難を浴びているにもかかわらず止まることなく石油や穀物の高騰を来し世界経済に大きな混乱と諸物価高騰の原因になっています。

他方、新型コロナウイルスによるパンデミックは、さらに社会の機械化・IT化を促し、ChatGPTの登場はよりシンギュラリティ、AI×ロボット時代の到来が身近に迫ってくることを実感させるものとなっております。

このような激動の世界的状況にある中、新興国といわれる国々の経済力と産業力の伸長は、日本をはじめとした先進国を徐々に脅かすところになりつつあります。にもかかわらず未だ日本の経済低迷は長期化しており、かつ産業の衰退と少子高齢化は日本社会により深刻な影を落とし国家の巨額の債務はさらに積み上がり、次代の日本の先行きに大きな不安を抱かせております。

急務の産業競争力回復は技術の高度化・グローバル化とあいまって大学教育中心の理系教育推進を標榜する国家政策と学費無償化の拡大による大学進学加速により専門学校へのIT希望進学者の減少を来すところに至り、専門学校サバイバル競争激化が確実に進捗しております。

このような過酷な運営環境の中、弊学園は創立者の精神「人技両立」を堅持の下「栄えある80周年」を合言葉にAI×ロボット時代のプロ育成を目標に全校一丸となって学園教育の改善と発展を果敢に推進しております。

「教育」

AI×ロボットに関連した技術の習得については、各学科の必要とされる技術や知識に応じた授業のカリキュラムで実施しています。例えば、電気設備科では、ドローンの操縦訓練を実習内で行い、ロボット技術を設備点検などに活用する方法を学びます。また、電子工学科では、人を乗せることができるロボットの製作を行い、実際の製作実習や業界の技術者からの指導を通じて、ロボット開発やIoT業界で必要な知識や技術を学びました。ITを中心に3学科の教育を再構築については、電子工学科では通信ネットワークに関する授業を強化し、ITに重点を置いた授業を提供しています。また、電気設備科では工事担任者の資格取得対策を重点的に行い、IT分野の技術力と知識を向上させる授業を実施しています。情報エンジニア科では社会の急速なDX化に対応できるIT人材育成の観点から、AIの活用教育授業の実施を行いました。

IT・エレクトロニクステクノロジーの高度化とグローバル化に向けては、学内のネットワーク環境を整備し、授業でのインターネット利用を容易にしました。また、留学生へのサポートや学科改善に取り組むことで、グローバル化に対応しています。全学科では、外部企業との連携した授業を実施し、実践的な技術教育を提供しています。業界のニーズに合わせたカリキュラムや企業からのアドバイスを取り入れることで、学生が必要とされる実践的な技術を習得できるようにしています。

AO入試においては、適切な志願者の選抜を行うために、調査書の内容精査や面接、書類審査を通じて学生を評価しています。特に出席日数に不安のある学生については、その意欲や確実な出席が可能かを確認するために調査を行っています。

これらの取り組みにより、学内の技術の高度化とグローバル化に関する環境整備や学科改善に取り組んでいます。学科ごとに特徴に合わせたカリキュラムや実習を通じて、学生が実践的な技術を習得できるようにしています。

産業界のニーズに応えるため、外部企業との連携した産学連携の授業を実施し、企業からのアドバイスを取り入れたカリキュラムを提供しています。また、K.I.S.S (Kimura Academy Integrate Solution System)の構築については、ネットワーク回線やWi-Fiの整備および更新を行い、オンライン授業や学生との情報共有などインターネット回線の活用を可能にしました。

教員の研修においては、教職員の専門知識のアップデートを図るため、低圧電気取扱者特別教育の受講、電子工学科及び電気設備科で近年取り入れられる、ドローン基礎技能講習、IT教育の面では、AWS Summit Online、オープンソースカンファレンス2022 Online、その他Udemyを利用した講義を受講し、最前線の知見を深めてまいりました。

以上が、AI×ロボットに関連した技術の習得やIT教育の再構築、技術の高度化とグローバル化への取り組み、そしてAO入試の選抜プロセスに関する概要です。学校は学生の実践的な技術習得と産業界への人材育成に力を入れており、さまざまな改善や連携を行っています。

*情報エンジニア科

K.I.S.S(Kimura Academy Integrate Solution System)の構築について、AI・ロボット時代のエンジニアの教育基盤として相応しい機能を盛り込むように計画し、業者との打ち合わせを進めています。本校が目指すAI・ロボット時代の教育に向けて、まずは、最適なインフラ構築を優先し、ネットワーク工事を完了し、基幹10GB、WiFi6により、快適なネットワーク環境を整備しております。一方、業務システムと校務システムについては、慎重に業者選定と方針を擦り合わせておりますので、次年度より本校でパッケージを選定、導入することで、早期運用を目指して参ります。安全技術については、セキュリティの強化のため、物理的にUTMを新設いたしました。今後は、世間水準以上のセキュリティを徹底し、来る次世代教育プラットフォーム構築を目標に、教育インフラの準備をしていきます。

AI教育について、情報エンジニア科ではディープラーニングの基礎教育と、Pythonプログラミングを実施しました。AIの活用教育は身近な利用事例を中心として学習できるような教育内容となっており、今後も更に、楽しく・面白く・役に立つAI教育を推進していきます。人材について、新規にクリエイター系の常勤職員の確保ができました。Webデザイン・グラフィックデザインコースの再構築のため、既にクリエイター系コースの授業に参画しリデザインを推進しております。次年度より担任業務を通じて現在の学生が求めるクリエイター像を追求し、学生教育及び志願者の獲得にも更に力を注いで参ります。

全員資格取得について、エンジニア系・デザイン系ともに目標資格の設定および学習・受験のスケジュールを早めに作成し、各学生に合った資格の選定と指導を行い、1年生は全員資格取得完了。2年生は1名を除き資格取得完了しております。今後は、企業ニーズを踏まえ、基本情報技術者試験の全員合格を目指します。

大学編入を希望する学生について、数学科目の強化を実施しました。大学編入試験の数学科目は、1年次に全て網羅するカリキュラムとし、今後受け入れる国費留学生を万全に対応できるよう準備してまいります。職業実践専門課程取得について、認可条件が「全コースから毎年卒業生を輩出している実績があること」が必要であるため、まずは実績を作ることを目標とし、今後に備えて認定を受けている電子工学科・電気設備科と同等の職業実践専門課程委員会を開催し認可取得を目標として取り組んでまいります。

*電子工学科

今の学生達が抱く夢を応援するため、ロボットチームを編成し一つのロボットを製作する課程を学んで参りました。教育理念でもある「人技両立」の人格育成のためチームワークの重要性についても織り混みながら実習を行いました。また、ロボット実習において、後期授業から企業が開発した技術を本校の授業の教材とし指導して頂き、搬送用ロボットの製作を行いました。製作では、木材加工やはんだ付け作業、プログラミングなど幅広い内容を織り込み、ものづくりのみならずIT教育の要素も織り込み教育を行いました。

また、家電サービスコースに関しては、新規TVを購入や、工具の追加購入を実施し実習環境の充実を行いました。ロボット、家電製品への興味関心など、学生のニーズについて定期的に調査し実装して参りました。

資格取得に関して全員資格取得しており100%を達成し、実践技術を中心にIT関係資格の取得を目指し、本校の学生は、認定資格のみならず自ら電気工事士を受験し獲得したりと他校より積極的に資格取得に励み、取得に向けサポートを行った。就職・進学に関しても100%を達成することができた。

*電気設備科

技術の高度化に関しては、電気設備科は職業実践専門課程認定学科として企業委員や有識者からのご意見をもとに、より実践的な授業や実習に向けて様々な改善を

行った。全員実践技術修得、全員プロ資格取得については、例年並みの合格率となったが、今後は更に合格率を上げるべく、資格対策などを通して、次年度のカリキュラムは学生の資格対策をフォロー体制を組んでいます。

AI・ロボット教育については、ロボット技術を設備点検などに活かすため、ドローンの操縦訓練を実習内で実施しました。学生からも好評で、今後の電気設備業界の省力化や、安全性の向上に向けて効果的に学ぶことを目指します。

学生を関西で独占する目標については、現在電気設備科はドローン実習や天井照明器具取替工事实習、石膏ボードを利用して埋め込みコンセントの取り付け実習など実践的な授業を行い、他校では行っていないと思われるオリジナルカリキュラムを行っています。また、資格対策についても上位資格の取得目標を掲げており、今年度8名の第一種電気工事士合格者を出すことができた。それらの特徴を今後も維持し続けることにより、他校との差別化を図り、関西での学生独占を目指す。認定の規定枠にプラスして広範囲にわたる電気分野のより実践的な教育指導を行う件については、第一種電気工事士、また電気主任技術者の取得対策講座を放課後に実施し、現場で必要とされる資格の取得できるよう指導を行いました。

結果として1名電気主任技術者試験に合格し、より現場での環境に近い状態で実習できるモデルハウス製作とカリキュラムの工夫に関しては学生での関西独占目標と内容が重複するがドローン実習をはじめとする現場に近い実習を行うことにより果たすことができた。

人格面の錬成を強力に指導して安全・安心の工事に資する件に関しては、低圧電気取扱者特別教育の実施や救命講習の実施により安全に対する意識を高め、現場での緊急時の対応や安全確保の方法について学ぶことができた。

「外国人教育」

外国人教育では、今年度より各学生のレベルに合わせた授業が展開できるよう2クラス制で授業を行い、各クラスでレベルに合わせた学習を実施することができました。日本語学校とは異なった環境のもと勉強や人間関係を築くことで会話力も伸びております。3月に卒業を迎えた留学生のうち、日本での就職希望者、大学編入希望者、それぞれ進路希望を達成することができました。今年度の入学者数はコロナ禍の入国制限があった年度の留学生の入学年となり全体で14名の私費留学生が在籍となりました。学園創立80周年に向けて日本語科の設置を目指し、留学生事業の拡

大に向けて各省庁へ申請できるよう提出書類の準備を進めております。今年度、日本語主任教員の採用を行い、これまでの外国人教育担当者を中心に日本語科の設置準備に向けて市場調査を進めています。留学生の就職状況については、就職希望の留学生の約70%は年内に達成しております。今後は内定率向上のため、留学生を積極的に採用する企業を開拓していきます。

「学生指導」

全員卒業に関しましては、退学者が数名出ましたが、出席率に関しては各クラス平均で90%以上出席率がありましたので、概ね達成できたと考えています。また校訓である「人技両立」の人格育成のため、コロナウィルスの対応が緩和されてきたこともあり、感染対策をしながらイベントを実施することが出来ました。イベントを通じてクラス内だけでなく、他のクラスや教職員(大人)とのコミュニケーションを取ることでマナーの育成を行い、また行事へ積極的に参加することで、積極性と自主性を養いました。コロナウィルスの感染対策にはしっかりと対応できたこともあり、校内感染は発生いたしませんでした。健康のため禁煙を呼びかけましたが残念ながら全員禁煙とは行きませんでした。引き続き禁煙指導をしていきます。また防災面に関しては、従前から飲料水常備、停電時非常バッテリー、UPS(無停電電源装置)の設置など毎年充実させ学生の安全に配慮し安心と安全の教育環境構築を逐次進捗させました。防災対策として、火災、地震に対する避難訓練を実施。防災マニュアルの更新も行いました。また警察による防災教室も実施いたしました。

「就職」

就職課では、自己分析強化を方針にして就活指導して来ましたが、自己分析は学生にとって難易度が高く、卒業生の内、斡旋できた学生は78%となります。本年度も情報エンジニア科の学生が最後まで苦戦しましたが、学校斡旋希望者は100%を達成できました。留学生は就職斡旋と自己就職で内定しております。今後は、学生のニーズをもとに、学生が希望する企業を増加させることを目指します。

DX化につきましては、就職課ポータルサイトの制作を完了し、運用開始時期を調整しております。また、サイト公開のため、個人情報保護の観点より、求人票の見直しを完了し、発送依頼分から変更しておりますので、80%達成できました。

今後は、AIを適用する等、更なるDX化により、全員希望先就職の早期達成を目指します。

「学生確保」

学生確保は、創立80周年に向けて各種メディアを的確に使い分け、学校情報を効果的に発信してまいりました。具体的には21年度募集での電設・電子の学生数減を踏まえ、23年度募集では、当初から電気設備科・電子工学科を主軸としたPRを行いました。体験実習においても、ロボット体験、家電体験、希望者にはドローン体験を新たに組み込み満足度向上を図りました。情報エンジニア科においてはオリジナルPCを作成しロビーにて展示を行いました。SNS、Twitter、Youtube動画でのPR、HPの更新頻度を増やし、実習風景を中心に動画での学生訴求を実施しながら、大阪電子専門学校の認知度の向上、ブランド力の強化に務めました。

電気設備科・電子工学科については昨年より多くの入学者を獲得できており、目標人数を達成しております。情報エンジニア科では様々なSNSや、各種媒体によるPRを行いましたが、大学等の情報系学部の新設や理工系の再編による影響を受けたこともあり、目標人数に到達することができませんでした。

パンフレットや募集要項の資料問い合わせにおいては、請求者へ説明会のスケジュールを事前に告知するべく年間DMを作成し、各月に発行していたDMを見直しとポイントを抑えた月に発行することにより、広報コストの削減にも取り組みました。総資料請求数は、昨年よりも増加しております。

今後の課題は、大学全入時代により学生確保がますます厳しくなることが予想されるため、大学との差別化を図るように資格や就職、編入実績を取得し、早期でのPRを打ち出し年内で学生確保できるように進める。

「学園コロナウイルス感染症対策」

今年度も学園基本方針として大阪府の「感染拡大予防にかかる標準的対策」に加え、世間水準や他校水準以上の対策を行い感染症の発生を防ぐことを目的に取り組んできました。学園ではコロナウイルス感染症が世間にまん延し始めた当初より学内にコロナ対策委員会を設置し、感染症が発生した際には迅速に対応してまいりました。

た。今年度も一年間を通じてコロナ対策委員会を中心に世間感染者数の推移を日々分析し、世間が増加傾向にあった場合は学生のオンライン授業を実施、事務職員のテレワークの実施に加え、抗原検査キット配布により学生や教職員の安全を第一に考え、感染防止対策の徹底を図って参りました。

取り組みの成果もあり、学園内の感染者はゼロに抑えることができました。コロナウイルス感染者数の推移は徐々に減りながらも予断を許さない1年でありましたが、今年度卒業式は学生個人の意見を尊重しマスクの着用を義務付けることなく実施することができました。

「総務・人事」

2022年の学園創立80周年記念事業に向けて、総務では各事業のフォローに務めてきました。80周年記念事業の3スクール計画の3つ方針を軸に、既存の学科のIT化に向けた学科編成、外国人教育の更なる発展として日本語学科の設置、校内教務システムの構築としてKISS構想を推進して参りました。特に外国人教育については、日本語学科設置を2026年の目標と定め、必要申請書類の作成を適宜進めています。学生支援活動については、当学園は修学支援新制度が適用される学校であり、今年度申請した全ての支援対象者が減免制度に採用されました。歴史的な円安による物価上昇もあり、様々なケース経済的に困窮する世帯には、年間を通じて適切な案内と支援を行い、修学支援制度に加えて、学園独自の減額制度を併用して学業維持や学業第一に適切に対応して参りました。また、AO入試・一般入試においてもより優秀な学生を確保するために尽力しています。学園校舎は竣工30年を迎える建築物ですが、新耐震基準を満たしており、震度6強～7に達する程度の大規模地震でも倒壊する恐れがないことを建築物調査で確認しており、災害時にも強い学園と設備を今現在も維持しています。建築基準法や消防法などの校舎の点検と是正については、80周年に向けて段階的に改修・改善を進めています。また、新たな施設設備の充実として、女子学生向けの寛ぎの場としてガールズルームを新たに設置しました。

今年度、物価高とともに高騰した電気・光熱費については、教職員の節電意識向上に取り組み、適切な温度調節により総使用電力は昨年比で94%を達成しています。

人材採用については、新たに日本語主任教員1名、情報エンジニア科クリエイター系の教員を1名、工業高等専門学校で教鞭をとられていた博士号教員を1名採用し、高いレベルのデザイン教育・電子工学の授業を展開できる体制を整えました。

留学生出願も増えているため、ベテラン日本語主任教員を採用したことにより盤石な外国人教育の体制を整えています。契約講師についても、長年勤務していた派遣講師の直接雇用転換に加え、数々の受賞歴のあるクリエイター講師を採用し、学生のコンクール出場推進を目的に励んだ教育を展開していきます。クリエイター系の教員の拡充により次年度はレベルの高い教育と若い世代のクリエイター育成に努めて参ります。組合所属の教職員について、情報エンジニア科のデザイン教員1名が定年退職をしましたが、新しいデザイン教員を迎え入れ、次世代の教員を中心に本格的に統率する次世代体制の整備が進捗しました。

以上